

## 2020 年第 81 回応用物理学会秋季学術講演会

2020 年度講演会企画・運営委員長 一木 隆範 (東京大学)

秋季学術講演会が、2020 年 9 月 8 日(火)から 11 日(金)までの 4 日間、学会初のオンラインにて開催されました。

今回の総参加者数は 8830 名と、秋季学術講演会では過去最多となりました。増加した要因としては、今回特別に聴講のみの学生の参加費を無料にしたことが挙げられます。無料参加の学生は 3375 名でした。また、一般公開のシンポジウムのみに登録した参加者が 720 名と多数おられました。これはオンライン開催となったことにより、講演会にアクセスしやすくなった結果と考えられます。

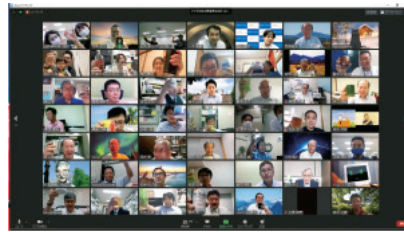
ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

講演件数は、22 のシンポジウム、15 の大分類と 3 つの合同セッションならびにフォーカストセッションの合計で 2434 件となり、前回(北海道大学)と比べ 1731 件減少しました。減少した理由としては、COVID-19 の影響により研究が進められなかったことやポスター講演をなくし全て口頭講演としたこと、企業がオンライン開催での情報公開を敬遠したことなどが考えられます。講演の内訳は、一般講演 2178 件、招待講演 256 件となり、大分類別の講演件数割合は図 1 をご参照ください。

登壇者の所属を基に投稿機関数を分類すると、大学関係 84.7%、企業 6.5%、研究機関 7.5%、そのほか 1.3% となり、講演件数は減少したものの、登壇者割合は前回秋(北大)と同程度でした。

今講演会のシンポジウムは、non-technical 3 件、technical が 19 件企画され、いずれも現在ホットな話題や重要になりつつある話題を取り上げており、最新の話題が短時間に理解できることから、これまで以上に参加者を集め盛り上がりを見せておりました。

特に、一般公開した「応用物理技術の社会実装の加速を目指して(2)



懇親会冒頭の乾杯の様子。

～集積回路技術を例題に～」と「マテリアルズインフォマティクスの新時代」は、一時聴講接続数上限の 500 名に達し入室できないなど、全体的にこれまで以上の参加者が集まる結果となりました。また、オンライン開催のメリットを生かし、9 つのシンポジウムを録画して後日参加者向けに公開しました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

今講演会も例年同様、口頭講演のほかに、基礎から応用までを短時間で学べるチュートリアルを 3 件実施しました。こちらも、例年よりも参加者が多くなりました。

講演会初日の夕方から開催した懇親会の第 1 部 (Zoom) は 236 名が参加しました。参加者全員による乾杯に続き行われたクイズ大会は大いに盛り上がりを見せました。また、その勢いそのまま第 2 部 (Remo) に移動して遅くまで懇親を深めた方も多くいらっしゃいました。

また、「第 16 回 JSAP フォト&イラストコンテスト」をオンライン投票にて実施しました。この企画では、講演会参加者の投票により、最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品が選ばれました。受賞作品は HP に掲載しておりますので、ご覧ください。次回の応募をお待ちしております。

今回の講演会は初のオンライン開催であったにもかかわらず、同志社大学と京都工芸繊維大学を中心とした現地実行委員会による準備とアルバイトの

学生さんたちのご活躍、同志社大学事務部のご協力のおかげをもちまして、全ての行事を滞りなく進めることができました。現地実行委員長の吉門進三先生をはじめ、現地実行委員会の諸先生には深く感謝申し上げます。また、今回ご協力いただいた関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。

2021 年春季学術講演会 (2021 年 3 月 16 日(火)～19 日(金)) は、今回同様オンライン開催となります。次回はポスター講演も可能とし、オンラインのよいところを最大限生かして皆様に喜んでいただける講演会の実施を検討して参ります。皆様の登壇(登壇締切日 1 月 12 日(火))および参加をお待ちしております。

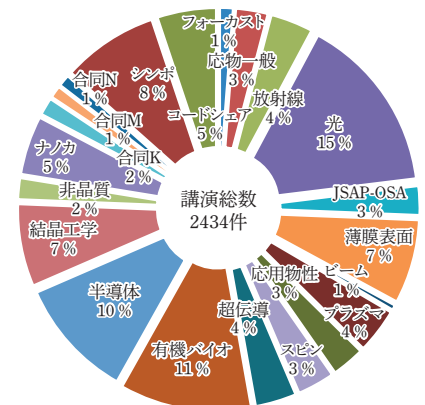


図 1 第 81 回応用物理学会秋季学術講演会大分類別講演件数割合。各大分類の値には若干の誤差があります。



当日の講演会運営の様子(同志社大学京田辺キャンパス)。